

議案に対する反対討論(7月6日) 江上博之議員

都市高速丸田町JCTをフル交差にし、栄出入口を増設

環境などを犠牲に都心部への自動車流入を拡大

7月6日の6月市議会本会議の最終日、議案の採決に当たり、江上博之議員は、都市高速道路整備計画変更(案)に対して反対の立場から討論を行いました。

都市高速整備計画変更には反対

今回の計画は、都市高速道路が交差する中区の丸田町ジャンクションで、北方面から西方面へ向かう西渡り線、西方面から南方面へ向かう南渡り線を建設し、栄との連絡のための出入口を建設するものです。そのために、平面道路の空港線と若宮大通の歩道に橋脚を建設するものです。

江上議員は以下の理由をあげ、計画変更には反対しました。

「通過交通を都心から排除する」という都市高速の理念に反する

第1に、都心域である名古屋駅前に続き、栄にも一般車の自動車流入を進めようというものだからです。名古屋都市高速道路の理念である「通過交通を都心から排除しよう、都心への自動車流入を減らし渋滞を解消しよう」に全く反するからです。

歩道に橋脚が林立、騒音や大気汚染など、住民に犠牲を押し付け

第2に、地域住民にとって、犠牲を強いるものだからです。

らです。歩道部分に橋脚が林立し、高層マンションの目の前を自動車通過することになります。町が暗くなります。騒音、振動、大気汚染など環境が現状よりさらに悪化します。地域にとって、高速道路建設は住民に犠牲を強いるもので、反対運動がありました。反対運動があったから工期が伸びたと批判する声がありますが、環境破壊を許さず、公害対策が一定進められました。



住民犠牲を押し付けて1200億円もの巨額投資でいいのか

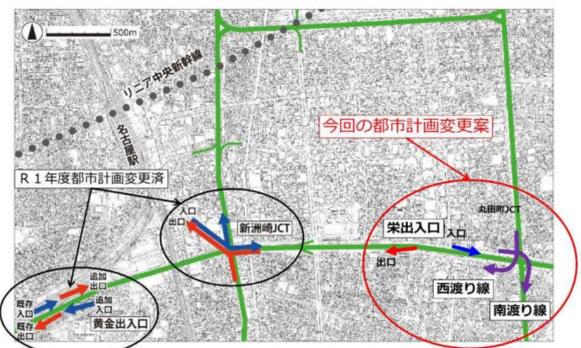
第3に、市民犠牲の事業に、今回の計画だけで約600億円、名古屋駅への自動車流入計画を含めると、総額約1200億円もの巨額投資になるからです。

住みやすい良好な環境を守ります

誰もが良好な環境の下で住み続けられる名古屋をめざして、討論を終わります。

以上の討論ののち、採決が行われましたが、賛成多数で計画変更が可決となりました。

高速道路出入口及び渡り線の追加によるアクセス性の向上



名古屋高速道路の整備計画の変更

- ・新洲崎JCTと黄金I Cに新たな出入口を設ける
- ・概算で570億円増(1兆6900億円 → 1兆7470億円)
- ・完成予定年度: 2020年度 → 2027年度
- ・今回、さらに丸田町JCTに西渡り線と南渡り線を設置し、栄出入口を増設